

日本危機管理防災学会 2019 年度研究大会
分科会Ⅲ「災害廃棄物対応の現状と課題」

コーディネーター：中林一樹（首都大学東京名誉教授）

水害・土砂災害・地震災害が引き続いています。

阪神・淡路大震災は過密都市での地震災害廃棄物の対応、新潟県中越地震では山塊崩落による土砂の対応、東日本大震災では巨大津波廃棄物、熊本地震は地震廃棄物、北海道胆振東部地震では斜面崩壊の土砂への対応とブラックアウトによる長期停電時の廃棄物対応、さらに西日本豪雨災害など大規模水害時の廃棄物対応など、地域特性と災害種別によって、災害廃棄物対応の多様化し、広域支援体制が不可欠にもなっている。

平時は市区町村が一般廃棄物処理、都道府県が産業廃棄物の許認可を分担しているが、災害時の被災地では、災害廃棄物は基本的に一般廃棄物としての市区町村の対応となり、しかも非被災地の日常の一般廃棄物処理を上回る災害廃棄物処理の課題が発生する。BCP 的発想を持っての廃棄物取り組みが不可避となっている。

この分科会では、最近の災害事例における廃棄物処理の現状とともに、来るべき過密都市での大規模災害である首都直下地震や、広域巨大災害が想定されている南海トラフ地震時を念頭に、災害廃棄物対応の現状と課題について考える機会とする。